

2007年度海外研修生等助成事業 研修報告

公立小学校に在籍する外国人児童に対して、 帰国後にもつながる学習支援の在り方

静岡県沼津市立今沢小学校 教諭 生田 佳澄

外国籍児童の学習支援担当9年目になる。公立小学校に在籍する外国人児童に対して帰国後にもつながる学習支援の在り方を研修することにより、外国人児童のいる学級・学年に対する教科教育の視点の幅を広げたい。外国籍の児童にとっても、外国にルーツをもつ児童にとっても、外国籍児童のいる学級・学年の日本人の児童にとっても良いカリキュラム・教材を開発することで、多文化共生の教育につなげていきたい。

その意図から、市内で一番多く在籍し、年々増加傾向にあるペルー人児童に焦点を当て、ペルーの教育事情を視察研修するに至った。渡航に先立ち（財）企業経営研究所により、個人レベルではアポ取りも難しい関係省庁（在日ペルー大使館・ペルー教育省・日本大使館）との連絡ができ、的確な情報を得る中、短期間ではあったが充実した研修を積むことが可能となった。

ペルーでは、日系人校・現地校・日本人学校・関係省庁への訪問により、公立小中学校のもつ諸事情や授業の進め方等を具体的に知る機会を得た。また、帰国した全ての児童や保護者に会い、帰国



ペルー教育省にて
～APEBEMO代表とプロジェクトに関わる会合～

後の状況を担任や学校長と話し合う中、帰国児童の抱える課題がはっきりしてきた。さらには、

以下に示した海外留学生を多く輩出する教員養成校付属小中学校の教育目標に、国際人としての誇り・適応力の育成を図る視点を得た。

**Si queremos cambiar nuestra patria
empecemos por cambiar nosotros mismos**

（新天地を求めめるのなら、自分自身を変えはじめよう）

今回の海外研修で、母語図書教材の充実が図られたので、地域等での活用も図り、学びの軸作りとしての国際教室の授業を展開していきたい。本研修によりペルー大使館・教育省、JICA（国際協力機構）、JOCA（青年海外協力協会）、ペルーの国公私立学校の教師と今後につながるありがたいネットワークが得られた。そして、異国での一期一会の出会いで児童の学習支援の意見を交換し合う中、APEBEMO（日本の文科省推薦の日本の大学へのペルー人留学生の会）や帰国した児童の保護者と連携し、ペルーと日本を行き来する児童がどちらの国に行っても、学びを続けていけるための教材開発プロジェクトが立ち上がった。

この研修を機会に、青年海外協力隊の経験も生かし、わかりやすい授業作りを国際レベルで考え、子どもの進路に対する夢を保護者や地域ぐるみで育てていきたい。FMぬまづ初のスペイン語を使った教育番組（ペルー人保護者の発案）「Latin はら」を通した2ヶ国語での発信等、研修で得られたことをより多くの方々と共有する機会をもち、多方面からの助言を日々の教育活動に生かしたい。